

第 144 回アジ研高官セミナー感想文

東京地方検察庁 検事 荒木 真人

私は、このたび、第 144 回アジ研高官セミナーに参加しました。このセミナーは、今年 1 月から 2 月にかけて約 5 週間にわたり、東京都府中市内の「国連アジア極東犯罪防止研修所（略称「アジ研」又は「UNAFEI（ユナフェイ）」）で開催されました。

馴染みのない方もいるかもしれませんが、アジ研・UNAFEI は、国際連合（国連）と日本政府との協定に基づき、アジア・太平洋地域を中心とした国々の刑事司法行政の健全な発展と相互協力を促進する目的で、昭和 36 年に設立された国連の地域研修所です。今回の高官セミナーも、その目的に沿い、日本と諸外国の高官計 23 名が参加した国際セミナーでした。また、今回のセミナーは、アジア・太平洋地域の他、グアテマラ、ペルー、ブラジルという中南米諸国や北アフリカのナイジェリアからも参加があり、地域を拡大した international な研修でした。

ところで、このような国際的なセミナーとなれば、文化や人種、政治・経済等が異なるのは勿論のこと、言語も多種多様です。そうなれば、共通語は、私の苦手な English・英語しかなく、セミナーでは原則全てが英語でした。加えて、アジ研・UNAFEI セミナーの特色のひとつは、参加者全員が寮に入り、ひとつ屋根の下で寝食を共にすることでした。そのため、セミナーが始まると、毎日が英語漬けの生活となりました。無論、それですぐに英語が上達するはずもないのですが、不思議なもので、しばらくすると、相手の言わんとすることが英語なのになんとなく分かる、知っている英単語を並べ立てるとこちらの言うことがなんとか相手に伝わるという状況が生まれました。つまり、持てる知識量は変わらないのに慣れで英会話（らしきもの）ができるようになったのです…習うより慣れるとはこのことです。ともあれ、そうなれば、「同じ釜のメシを食う」者同士、親しくなるのも時間の問題、いつのまにか、互いに brother や my-friend と呼び合う仲となりました。アフター 5 の飲み会は勿論のこと、セミナー後半には広島・京都への見学旅行もあって、セミナーも大いに盛り上がりました。きっと、これまでアジ研・UNAFEI の研修やセミナーに参加した方たちの多くが、こうして国境を越えた友人を得たに違いありません。私は、これもアジ研・UNAFEI の持つ見えないけれど重要な成果のひとつだと思います。

さて、今回のセミナーは、「犯罪被害者支援」がテーマでした。

参加者の多くが警察官であったため、意見交換の場では、各国の治安や犯罪の実情を色濃く反映した意見が多く出ました。時には、貧困や政治的混乱のため、犯罪予防や被害者支援には手が回らないなどの厳しい国情も話に上りました。しかし、私たちは、そうした中で、どんな国にも支援を必要とする被害者がおり、被害者支援は今後の刑事司法には必要不可欠であること、そのためには、各国が相互理解を深め、協力し合うことが極めて重要であることを確認し合いました。そして、セミナーの最後に、これを意見や提言にまとめて発表しました。近々、アジ研・UNAFEI のホームページに掲載されると思いますので、関心のある方は是非見て下さい。

私は、今回のセミナーで、世界への目が大きく開けました。アジ研・UNAFEI の研修やセミナー参加する機会に恵まれた方は、遠慮せずに積極的に参加して下さい。そして、最後になりましたが、アジ研・UNAFEI は、世界の刑事司法行政の健全な発展と相互協力に

極めて重要な役割を果たしています。今後さらに発展されることを願って止みません。

以上